

## 不当要求防止を再確認

松浦魚市場不当要求行為等防止対策委員会（城島正彦委員長）結成1周年記念総会が7月15日、松浦シティホテルで開催されました。

同委員会が7月で結成1周年を迎えたことから開催されたもので、松浦魚市場協会の会員など約50人が参加しました。

会の中で松浦警察署岩田<sup>ひろふみ</sup>廣文署長は「住民・警察・企業・行政が手を取り合って日本で一番安全・安心な魚市場となり、その誇りと伝統を子どもや孫に伝えていってほしい」と話しました。

また、この日は飲酒運転追放宣言も行われ、城島委員長が宣言文を岩田署長に手渡しました。



## おてや 落合の滝に橋完成

志佐町赤木免にある落合の滝の参道の橋が完成し、7月27日に落成式が行われました。

この橋は、弘法大師を祭った落合の洞窟への参道の橋で、2年前の大雨で崩壊していたものを今年の彼岸行事を前に建設業の団体「川西会」などのボランティアが仮設橋を設置。今回、市が鉄骨や生コンなどの材料を支給し、川西会などが施工したものです。赤木地区の市山時<sup>ときお</sup>雄区長は「多くの人の協力で立派な橋が完成し、地区の彼岸行事などが安全に行えることをうれしく思います」と話していました。



## 今福の民話がミュージカルに

今福小学校（鴨川寛二校長）で7月14日、星鹿町出身の劇作家、岡部<sup>こうだい</sup>耕大さんにより今福に伝わる民話「丹後の人柱」のミュージカルの指導が行われました。

これは文化庁の「学校への芸術家派遣事業」で行われたもので、この日は岡部さんのほか4人のスタッフが生徒たちに歌や演技の指導を行いました。

この話は、殿様の命令で今福の海岸を埋め立てようとするが嵐で工事が進まず、人身御供を埋めて嵐を鎮めるといふ「人柱」地区の名前の由来とも言われる悲しい民話。岡部さんが民話をもとに脚本を制作し、脚本が出来上がった6月頃から今福小6年生46人と保護者などが11月7日の学習発表会での発表に向け総合的な学習の時間に練習を行っています。



## 五穀豊穡や無病息災を祈願し、 田ノ平浮立を奉納

志佐町田ノ平地区に古くから伝わる「田ノ平浮立」が7月15日、田ノ平祇園神社で奉納されました。

五穀豊穡や無病息災を祈願する伝統行事で、300年以上の伝統があり市の無形文化財に指定されています。

この日は、田ノ平浮立保存会（久田<sup>ひでのぶ</sup>榮信会長）の男衆が笛や鉦、太鼓を奏で、女衆があやとりや銭太鼓を手踊りに披露。見物に訪れた地元住民や上志佐小学校の5、6年生から拍手が送られていました。

## 九電オープナーの売上金を社協へ

九州電力松浦発電所（中西章夫所長、写真右）が7月10日、事業所オープナーの売上金を松浦市社会福祉協議会（大畑安盛会長、写真左）に寄付しました。

同事業所は、市民に対する感謝の意と事業活動への理解促進を目的に毎年オープナーを開催。焼きそばや関連会社で作っているお茶などを販売した売上金278,600円を、松浦市の福祉に活用してほしいと寄付したものです。

中西所長から寄付を受け取った大畑会長は「寄付の半分は青いプラスチック製のベンチ購入（昨年度は7台購入し市内のバス停や公園に設置）に使用し、残りの半分は地域の独居老人の食事サービスなど、地域福祉の推進に役立てます」と話していました。



## パッションフルーツ生産農家が意見交換

市内でパッションフルーツを生産している農家など15人が6月30日、市役所を訪れ、市長や農林課長などと意見交換会を開きました。

パッションフルーツは、南米の亜熱帯地域を原産とするトケイソウ科の果物。本市の気候ではビニールハウスで手軽に栽培でき、一株に200個以上の濃い赤紫色の甘酸っぱい実が実ります。

現在、15戸の農家で年間約6トンを生産。意見交換会を前に生産者たちがパッションフルーツを市長や議長に贈呈。会の中で生産者たちは「パッションフルーツの実が実るのを楽しみにして育てています。増産のために休作中のビニールハウスがあったらぜひパッションフルーツの作付けを勧めたいです」と話していました。



## 松浦出身の画家が絵画を寄贈

御厨町出身で、東京を拠点に中国・韓国などでも活躍する水彩画家酒井敦彦さん（水彩連盟委員、66歳）が6月25日、文化会館に水彩画2点を寄贈しました。

寄贈された絵画は「7月21日から30日の間」と題した抽象的な水彩画2点で、縦横2辺のひし形。木枠にダンボールをはめ込んだキャンバスにダンボールを立体的に貼り合わせて描かれています。

酒井さんは「文化会館に展示し、市民の芸術活動の一助として活用してください」と話していました。

水彩画は、平成7年の文化会館開館記念に酒井さんから寄贈を受けた2点とともに文化会館ロビーに展示され、市民の目を楽しませています。



## 松浦メロン「爽潤果」

生産者でつくる松浦メロン部会（末武茂善部会長、33戸）の会員など6人が6月30日、市役所を訪れ、市内で生産するアールスメロンの新ブランド「爽潤果」の披露を兼ね市長に贈呈しました。

「爽潤果」は、JAながさき西海と市が「平戸・松浦地区観光人材育成プロジェクト」と協力して開発した新ブランド。糖度15度以上で1.4kg以上の高品質アールスメロンだけの新しい規格で、市内の年間生産量約200トンの1割程度となる見込みです。

この「爽潤果」は松浦メロンのイメージチェンジと知名度アップを目指して、長崎市、福岡市の市場などへ贈答用として出荷されます。質のいいものは高く売れると農家の所得向上にも期待されています。

